

2020 年度 第 2 回定例会記録—林

日時:2020 年10月14日(水)19:00~21:30

会場:萌木ホール A 会議室

出席者:内田・木俣・高坂・小谷・小山・田頭・瀧本・長森・藤崎・安田

Zoom:片山・佐野・杉本・林/プレック研究所

進行:小山 書記:長森

■協議事項 「第三次環境基本計画」における環境市民会議の立ち位置と市民会議の人事体制について

1.開催の趣旨

「環境市民会議のあり方について協議し、その結論を環境政策課に伝えたい」

2.協議結果

- ・市民会議のあり方について、出席者から多様な意見(下記参照)が出されたが、終了時間になっても結論は得られなかった。
- ・引き続き協議は継続。なお当日の参加者間で市民会議の存続については、廃止・解散の意見はなし。

3.宿題

11月11日(水)の環境審議会への対応について(午前9時30分から市本庁舎3階第一会議室)

現在、第3次環境基本計画策定審議の大詰めを迎えており、11日の審議会の結果を12月のパブリックコメントに付す予定であることから、

- (1) 市民会議としては、時間の都合上、前回10月12日の環境審議会に提出された基本計画の事務局案のうち、市民会議に係る記述の部分を中心に検討し、必要あれば修正案文を作成する。
- (2) そのために10/12事務局案を市民会議全体メールで会員に示し、該当記述についての意見を求め修正案文をまとめる。
- (3) 修正案文を11月11日の環境審議会でも審議・採用してもらうように三役が環境政策課と話し合う。

出席者からの意見

- *この間の市との話し合いで市のスタンスは「市民会議は市が作るものではなく、市民と事業者が作る事が出来る」「市民会議が環境活動をするなら市は協力する」というものであった。市との協働のあり方について議論したい。
- *立ち位置の問題も大切だが、代表・副代表が今期限りで辞任したいとの意向でもあり、次の執行部をどうするのか決めないと先に進めない。
- *行政に少し頑張ってもらい市民会議の負担を少し軽くしてもらって、市民会議の力が回復したらまた市民会議が前に出るといふものもある。行政は引きすぎているように見える。
- *ネットワークづくりももっと取り組みたいし、なんとか続ける方法を考えたい。
- *われわれ市民の側の問題を考えるのも大切である。NPOとの関係も改善の余地がある。
- *環境問題に関心のある市民はたくさんいる。環境活動は行政の助けを借りるケースが多く、パイプとなる市民会議の役割は大きい。ハードルを下げる必要がある。市民会議のパワーはまだあると思う。活動を楽しいものにすることが大切だと思う。
- *市と協働でネットワークを作ることは大切であり続けて行きたい。やれるかたちで良いのではないかな。

- * 設立当時は我々も気概があった。大学や事業者とのネットワークもあり、それが2次計画に反映し、環境市民会議が中心に位置づけられたが、市との協働が少しすり合わずくたびれてきた。
- * 近隣他市の行政には、積極的に企画や実行委員会段階から職員が関与しているケースがある。市民には参加し協力する責務があり、市民会議を壊すのはもったいない。
- * 全国的には行政主導の市民会議が圧倒的に多い。
- * 行政とNPOと協働について再確認すること、3事業について市民会議が活動の一部として積極的に参加することで事態は変わってくるのではないかな。
- * 「市民が主体」は大切でありビジョンを持ちたい。大学や企業とも同じ小金井の仲間としてもっとつながる必要がある。
- * 今回の定例会に行政の参加がないのは残念。なんとか続けるよう3次計画に書き込むよう求めたい。市民の自主活動が小金井の環境を作るのに大きい役割を果たしており横のネットワークづくりは大切な仕事で屋台骨の一つに置きたい。町内の自治会に環境係を置いてもらいネットワークを作ることも一案。当面行政が主で市民会議が協力する中で市民会議の力を回復する方向ではないだろうか。
- * 市民会議が行政の出先機関のようになるのはおかしいし、おんぶにだっこもあり得ない。
- * 基本計画の作成は第2次の反省の上に第3次を作るのであり、第2次で出来なかったことについて行政はどのように評価し第3次に反映しようとしているのか。
- * NPO 設立は、市民会議をそのまま NPO に切り替え3事業等を市から受託するという構想があり検討した経緯がある。事業を受託するには NPO である必要があるが、NPO にすると市の職員は関与できなくなるということで、2本立てとなった。お互いに遠慮の関係も有るが、NPO が受託している3事業には市民会議の積極的な関与が期待されている。
- * 今やめたら大変でありもったいない。我慢して続けたい。
- * 市民会議を存続させる方向で、大きな方向性を皆で合意してあと知恵を出し合って考えて行きたい。
- * ネットワークづくりは存在意義の要でありシャープに動ける場づくりに知恵を出したい。
- * 第3次計画の市民会議にかかる文案について検討し、代表より行政に提案したい。
- * 今回の議論を全員で共有する必要がある。文案も開示した方が良い。
- * NPO との連携もポイントの一つであり、連携して協働を進めたい。
- * 全体の方向性が、市民会議がなくなる方向でなくて良かった。

以上